令和３年度・４年度・５年度　東京都教育委員会　授業改善推進拠点校
令和５年度　授業実践リーフレット

令和５年度　第２回　授業研究の記録　中学年科分科会

研究主題

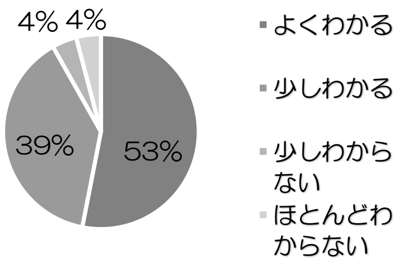
学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える

～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

分科会提案

現在の児童の姿　「児童の意識調査」（六小作成）の分析より、
以下の３点について、本単元で重点的に改善を行う。

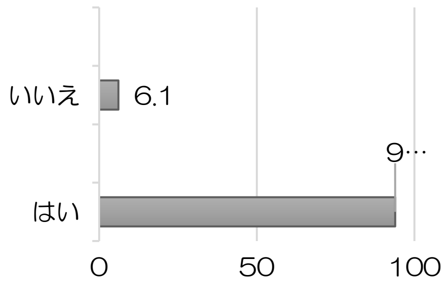
社会科の勉強はよく分かる



社会的な見方や考え方を働かせながら、疑問をもち、主体的に学習課題を立てることができるようにする。

学習計画表を常に掲示し、学習問題の解決に向けて、形成的に知識を獲得させる。そのために、児童同士の振り返りの活動を設定する。

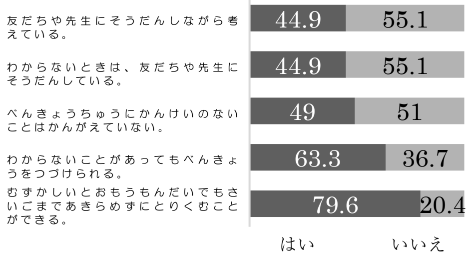
勉強は将来や実生活に役立つ



勉強が将来や実生活に役立つと感じている児童が、93.9%と高い割合になっている。より社会参画の意識をもって、課題に取り組む児童を育てる。

「いかす」段階で、「他市から来ている先生方に、福生市のことを紹介しよう」という活動を設定する。

学習の取り組み方について



分からないことがあると、学習を持続力することが難しく、学習に取り組むことができない。

個人で考える時間と、友達と考える時間、相談する時間などを効果的に活用することで学習への意欲を持続させる。

目指す児童像

課題のゴールに向けて、自己の達成度について振り返ることができる。

自分なりの思いをもってすすんで地域活動に参加することができる。

追究意欲をもって学習に取り組むことができる。

第３学年　社会科

１　単元名　わたしたちのまち　みんなのまち

２　単元の目標

　市の様子について、都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図やインターネットなどの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することなどを通して、自分たちの市の様子を大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

３　本時の流れ

課題把握 → 自力解決 → 考えの交流・比較 → 考えの見直し・調整

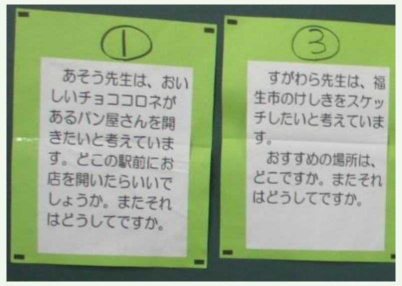
課題把握		自力解決		考えの交流・比較		考えの見直し・調整	
学習計画表を使って前時までの学習内容を確認し、課題を把握する。	「先生方に福生市のよさについて説明する」というめあてを確かめる。	「先生お願いカード」から選んだ問題の解決策を考える。	資料を基に自分の根拠が相手に伝わるような文を考える。	ミックスタイムにグループで考えを伝え合い、友達の意見を取り入れながら、課題を追及する。	各自がその問題を選んだ根拠を伝え、考えの共通点や相違点を見付ける。	友達の考えを聞いて、よいと思った内容を取り入れ、よりよいものとする。	交流前の自分の考えと交流後の自分の考えを比べ、ワークシートにまとめながら見直す。

手だて１　学習計画表に基づく課題把握

福生市のよさについて説明する際に、次の点に留意した。
- これまで調べてきたことを振り返る。
- 先生お願いカードで学習意欲を高める。
- 先生方のお願いに対する答えを考える。

また、学習意欲が高まるように学習計画表や福生市の地図を掲示し今までの学びを可視化できるようにした。

「先生お願いカード」
「福生市でおすすめの場所を教えてほしい」という先生たちのお願いに対する答えを考える学習に取り組むことで、どの児童も関心を高くもって学習活動に取り組めるようにした。



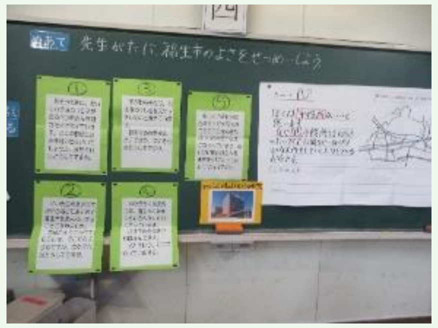
先生お願いカード

学習計画表

手だて２　選んだ問題ごとのグループ活動

これまでに学習したことを基に、先生のお願いを叶えるにはどうしたらいいのかを個人で考えワークシートにまとめさせた。自力解決を図る時間を十分に確保し、最後まで粘り強く考えることができるようにした。

どのようにしたら先生の願いが叶うのかを考えたワークシートを同じ課題に取り組んでいる友達と見合い、考えたことの共通点や相違点を見つけることができるようにした。



手だて３　よりよい考えとなるための見直し・調整

ワークシートを基に友達に考えを伝えることで、同じ問題でも共通点や差異点があることに気付くとともに、福生市のよさを再確認することができるようにした。

自分では気付かなかった福生市のよさについて、友達の考えを聞くことで、考えの違いや多様性に触れ、自己の考えを深め、深めた自己の考えをワークシートに書くことができた。

児童に見られた様子

手だて1	手だて2	手だて3
学習計画表に基づく課題把握	**選んだ問題ごとのグループ活動**	**よりよい考えとなるための見直し・調整**
市の様子を大まかに理解していくことが求められている本単元では、福生市のよさを軸にしながら学びの積み上げを行う。この積み上げを可視化できるようにしたことで、本時の学習のヒントや根拠となる事柄を容易に探し出すことができるようになった。 また、「先生お願いカード」の設定を単元の後半で展開することによって、児童が自分たちの積み上げてきた学びを、誰かのために活用したいという意欲をもって取り組んでいた。知識の獲得によって、課題の解決を主体的に行おうとする様子が見られた。	「先生お願いカード」に書かれている先生の願いを叶えるために、自力で解決を図る時間を十分に確保したことで、理由を含めた自身の考えを表現することができていた。 「ミックスタイム」では、自分の考えを友達に伝え、同じ問題に取り組む児童がもつ様々な視点に気付き、それをワークシートにまとめようとする様子が見られた。 	ワークシートを基に各自が考えを伝えることで、本単元の目標である、福生市のよさに繋がりをもたせた。 「ミックスタイム」で、積極的に人と関わろうという様子が見られ、福生市のよさについて、友達の考えを聞くことができていた。 よりよい考えを生み出せることに気付いていた児童もいたが、自分の考えの見直し調整を、主体性をもって行う様子は少なかった。

成果

- 導入時に、学習計画表を用いて、学習問題と前時までに調べたことを確認することで、学習内容を確実に積み重ねることができ、課題に自信をもって取り組もうとする児童が多く見られた。
- 自分の意見を述べるときに、「なぜなら」という話型を示すことで、児童は理由を述べる習慣が付き学んだことを関連付けて考えを深めることができるようになった。
- 本時の活動の設定の工夫によって、児童は興味をもって課題に取組み、友達と意見を交流したり学習を生かしたりして積極的に人と関わろうという気持ちが見られたりした。

課題

- 学習計画表を用いて、福生市の様子について学習内容を積み重ねることができたが、「白地図にまとめる」ことについては定着に課題があり、本時でもつまずきが見られた。知識と技能についてバランスよく身につけられるようにしていく必要あった。
- 「ミックスタイム」では、自分の考えを伝えるだけになっており、最適解に向けて、考えを広げたり深めたりできる話合いとなっていなかった。自分の考えと比べながら友達の考えを聞いて、目的にそった話合いとするために児童の思考を明確にしていく必要があった。
- ふりかえりでは、「今日の授業でがんばったこと」と問いかけ、達成感のある記述が見られたが、それが「学び方」と関連していると自覚しておらず、学び方について自己調整していく姿には課題が見られた。児童の頑張りを学び方の視点から価値付けし、積み重ねていくことが大切である。